

南河内中学校区義務教育学校の整備に関する地域・保護者説明会 質疑応答

説明会

- 〔 期日：平成30年9月18日（火） 〕
- 〔 会場：薬師寺コミュニティセンター多目的室 〕
- 〔 期日：9月19日（水） 〕
- 〔 会場：吉田西小学校ミーティングルーム 〕
- 〔 期日：9月26日（水） 〕
- 〔 会場：南河内東公民館多目的ホール 〕
- 時間：午後6時30分～

教育委員会出席者：

池澤教育長、石嶋南河内中学校区小中一貫教育推進協議会長
 坪山教育次長、小谷野教育総務課長、伊澤教育施設整備室長
 海老原学校教育課長、田澤学校教育課長補佐、西松学校教育課長補佐
 星野指導主事、岡本指導主事、白石指導主事、稲葉指導主事、稲見管理主事、黒尾主査、岡野主事
 上野小中一貫教育統括コーディネーター

事業者

AIS 総合設計㈱ 2名

説明会実施状況 参加者数（3会場計）61名

	<p>薬師寺コミュニティセンター多目的室 9/18（火）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○参加者 17名 （地域 10名、保護者 7名） （薬小区 13名、吉東区 2名、吉西区 1名、祇園区 1名） ○教職員 3名
	<p>吉田西小学校ミーティングルーム 9/19（水）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○参加者 19名 （地域 7名、保護者 10名、その他 2名） （吉西区 16名、吉東区 1名、その他 2名） ○教職員 2名
	<p>南河内東公民館多目的ホール 9/26（水）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○参加者 25名 （地域 9名、保護者 15名、その他 1名） （吉東区 21名、薬小区 4名） ○教職員 2名

質疑応答

9/18 (火) 薬師寺コミュニティセンター多目的室

No.	質 問	回 答
1	<p>①なぜ南河内中学校区で義務教育学校なのか。</p> <p>②考えられるデメリットは。</p>	<p>①小中一貫教育は全市的に行っている取組である。義務教育学校の目的としては、適正規模の学校生活を通して互いに切磋琢磨しながら成長をしていく場を設定することができる。また、9年間同じ場所で生活することで、学習面や生活面でのつまずきに丁寧に対応したり、小学校から中学校へ移行するギャップを軽減したりすることができる。</p> <p>義務教育学校にするには、他の中学校区では人数が多すぎる。南河中学校区はより適正規模（各学年3学級程度）な人数である。</p> <p>②遠距離通学者が出てくるので、登下校が不安になる。その点については、スクールバスの運行を検討している。また、授業時間が小学校と中学校では違うので、1日の日課等に配慮が必要となる。小・中学生では体格的な差もあり怪我等のトラブルの心配もある。低学年用のグラウンドや第二体育館等配慮を検討していく。</p>
2	<p>①増築したり、スクールバスを乗り入れたりするが、敷地は拡張するのか。</p> <p>②西側のどこまで拡張するのか。</p> <p>③スクールバスはどこで乗車するのか。</p> <p>④中学生はどうするのか。</p>	<p>①基本計画の中では、現在の学校敷地の西側へ敷地を拡張するのがよりよいのではないかと示されている。現在、学校西側の地権者の方には説明をさせていただいている。西側への拡張を想定して考えている。</p> <p>②西側の県道までの間を想定しているが、現在のところは検討中である。地権者の方々の意向も聞きながら進めていく。</p> <p>③スクールバスの運行については、今後みなさんと相談しながら進めていく。バスが停まれる場所を前提に、意見を伺いながら停留所を設定していく。</p> <p>④現在と同様に自転車通学となる。</p>
3	<p>大規模改修は夏休み中に行うなど、子供たちへの影響等を考えていただいていたが、建物の増築等工期が長くなった場合の騒音等の対応はどう考えているか。</p>	<p>工期が長くなると騒音等諸問題が出てくる可能性があるかと認識している。出てくる問題を想定して、対応を考えていきたい。</p>
4	<p>校舎等の整備でなく、パソコンなどの機器を充実させるなどソフト面を整備して学力向上を目指せないのか。</p>	<p>貴重な御意見をいただき大変ありがたい。下野市では、教員1人に1台のパソコンを整備したり、現在は順次タブレット型パソコンを1学級に在籍する児童生徒が1台ずつ利用できるよう整備したりして、他の市よりもパソコンの導入は高い水準である。</p> <p>小中一貫教育というシステムを利用していく目的は、学力の向上だけではない。下野市も年々子供たちの数は減少している。その中で、スマホなどの普及により、人と会話する機会が減っている。そのような現状の中、適正な人数の集団の中で、学び合い、育ち合い、励まし合いながら、コミュニケーション力を高めていきたい。人と人が会話する機会を増やし、自分の考えを自分の言葉で相手に伝えさせたい。その結果、思いやりがあり、感謝の気持ちを表せる子供たちを育てられるのではないかと考えている。</p>

5	英語やICT、プログラミング教育などは専門家であるプロに任せた方が良いのではないかと。	英語教育については、ALTと呼ばれる外国人の指導者を7名雇用して、全校で指導できるようになっている。また、JTEと呼ぶ日本人の外国語指導者を3名雇用している。これらはいくまでも担任や授業者のサポート役である。授業も子供たちのことをよく知っている担任などが行うことが、教育的に望ましい。専門的な指導のためには支援が必要となるので、ALTやJTEを活用している。ICTやプログラミング教育もただ機器を使用するだけでなく、様々な学習の中で機器を活用し、プログラミングに関係することを学んでいく。授業を行うのは教師であり、その支援として専門的な知識を生かせるようにしていく。そのため市教委の指導主事や雇用している情報教育アドバイザーを学校に派遣している。授業は、子供たちの様子を熟知している教師が行うことを原則と考えている。
---	---	--

9/19 (水) 吉田西小学校ミーティングルーム

No.	質 問	回 答
1	学童施設は設置されるのか。	学童施設の所管課であるこども福祉課と調整中である。現中学校敷地内に設置するか未定だが、設置することも視野に入れて検討していく。
2	<p>①習熟度別学習について、1学年2～3クラス内で理解度別のクラス分けを行うのか。クラス内で行うのか。どの学年から行うのか。</p> <p>②スクールバスの運行について、全学年が対象なのか、小学生が対象なのか。</p> <p>③給食ですが、現在はランチルームで食べているが、義務教育学校ではどうなるのか。</p> <p>④運動会等行事は、どうなるのか。</p>	<p>①学年の集団ができた後に、どの学年で実施できるかを検討する。例えば算数の教科すべてを習熟度別で実施するのでは適していないので、習熟度別学習に適した分野だけを実施することも想定している。全ての学年、すべての授業で実施するものではない。学年内での習熟度学習やクラス内で分けることも考えている。</p> <p>②スクールバスの運行について、中学生は今までと変わらず自転車通学と考えている。どこに住いのお子さんが対象になるのかは、今後、保護者との協議も含め、検討していく。</p> <p>③現在、吉田東小と吉田西小はランチルームで給食を食べている。今後は700名規模となるため、一堂で給食はできない。異年齢交流活動において、役割意識を持たせるのが重要である。給食は絶好の機会である。義務教育学校には多目的活用のオープンスペースを設置する予定であるため、給食も含め異学年の交流は考えている。</p> <p>④行事の具体的な実施方法は決まってないが、低学年の子どもたちが高学年の生徒の姿を見て学び、また、高学年の生徒が下の子どもたちの面倒を見ることは、有効な教育の場になる。全9学年の子どもたちが一緒に活動できる行事を考えていく。今後、教育課程を作っていく中で検討していく。</p> <p>異学年交流により行事を成功させることは、とても良い経験となる。運動会は異学年交流の絶好の機会である。</p>
3	各学校の特色ある行事はなくなってしまうのか。	4小中学校の行事を集約することは困難である。各学校の伝統的な行事は残していく方向で検討していく。

No.	質 問	回 答
1	<p>①義務教育学校敷地内の歩行者や自転車の安全管理はどうなのか。</p> <p>②具体的な校舎等のレイアウトはどうなっているのか。</p>	<p>①歩行者と自転車、自動車が交錯しない歩車分離を徹底し、整備を進めていく。</p> <p>②現在、基本設計業務の進行中である。整備基本計画書内には想定される配置3案を載せている。各案メリット、デメリットがあるため精査し、どういう形が効率のよい配置かを検討していく。皆さまからのアンケート意見も参考にして、業務を進めていく。</p>
2	インクルーシブ教育とは何ですか。	障がいがある子もない子も普通教室で同じように教育を受けることである。誰もが同じ場で学習することである。
3	安全ボランティアを担っているが、スクールバスが運行されると、業務はなくなるのか。	スクールバスの運行は、今後検討していく。学校までの運行ルートは保護者等の意見も含め検討していく。停留所を設けることになるが、そこまでは、お子さんに歩いてきてもらう。その間で危険箇所もあるので、ボランティアさん、地域の方にはご協力いただくことになる。
4	スクールバスの運行について、3小学校の児童全員が乗車し通学するのか。距離で区分するのか。ルール作りを慎重に願う。先進地も参考に。	スクールバスの運行について、ルールづくりはこれからである。国分寺小と国分寺西小の再編に伴いスクールバスを運行するが、運行ルートや停留所、安全面について、地域や保護者の方と協議を重ねている。義務教育学校も現在の通学ルート、距離が変わるが、安全面、負担面等を考慮し、先進地も参考にして、保護者や学校と協議を重ねていく。
5	<p>①現中学校の部活動が少ないが、今後見直し等があるのか。</p> <p>②体操着はどうなるのか。</p>	<p>①要望の部活動をすべて設置することはできないが、子ども、教員数が増えるため、ニーズや状況を踏まえ新たな部の設置を検討する。</p> <p>②開校時に揃えることは各家庭の事情もあるため、何年間か猶予期間を設け、買い替え時に揃えるいただくことを考えている。</p>
6	<p>①安心、安全面から中学生のスクールバス利用の検討を願う。</p> <p>②習熟度とあるが、コース別のクラス分けを行うのか。</p>	<p>①スクールバスは小学生を対象とし、中学生は現行どおり自転車通学と考えている。危険箇所は、国の指導もあり緊急の安全点検を行った。今後、スクールガードリーダーや警察のパトロール強化を検討していく。</p> <p>②義務教育学校は、各学年2～3クラスとなる。クラス替えできる規模になることはメリットである。習熟度学習が適している(ある教科の)分野はコース別に、全体学習が適している分野は通常のクラス別に学習することを想定している。内容と教科に応じて習熟度別学習を取り入れる。</p>
7	スクールバスの中学生乗車について、考え方をリセットして、安全面を考慮し、保護者等の意見を聴取して再検討はできないか。	市内全域に危険箇所が存在する。地域やスクールガードボランティア、スクールガードリーダーによる点検パトロールの実施や、暗い箇所には防犯灯の設置について担当部署に願う。今後も通学路の安全対策は十分に図っていく。

8	誰でも乗車できる巡回バスの運行を願う。運行について、教育委員会から担当部局への要請を願う。	下野市ではデマンドバスを運行している。県外には巡回バスを通学に利用しているところもある。学校行事により始業時間が変わることがあるため、国分寺西小の再編に伴う措置もスクールバスとして運行する。義務教育学校においても子どもたち専用のスクールバス運行を検討していく。
9	現敷地内で計画しているのか、拡張も検討しているのか。広い学校敷地を確保してもらいたい。	現敷地内で検討していたが、十分な広さの学校敷地を確保するため、整備計画書では、西側敷地を拡張することを想定している。今後、地権者との交渉も必要となる。
10	要望として、今後も節目で説明会を開催して、地域や保護者の意見を取り入れてもらいたい。また、学校は地域の核であり、学校行事、PTA活動等で人間関係が構築され、地域を支えているが、学校がなくなるので不安がある。災害時の協力や伝統文化はどうなるのか、住宅の建築も少なく、この地区に人がいなくなるのを懸念している。地域力の維持を考えてもらいたい。	義務教育学校では、6年生の卒業式はなくなる。最高学年としての意識を今後も維持するため、異年齢交流活動を取り入れていく。各学校、地域には伝統行事があるので、それらを知り語り、それらをとおして異年齢交流を充実していきたい。本市は、今年度から地域とともにある学校として学校運営協議会が始まった。この地域ではどんな子を育てていくか等を検討し、9年間の連続した学びの教育を支援してもらいたい。また、今後、英語を用いて自分や地域を発信する『しもつけ未来学習』を展開していく。そこでも地域の皆さまにご協力いただくことになる。地域活動は学校教育の核にしていく。
11	①校名、校歌、校章、体操着等の検討について、保護者等の意見も取り入れ検討してもらいたい。また、いつ決まるものなのか。 ②幼稚園、保育園等へも義務教育学校に関わる情報の周知を願う。	①教育委員会だけで決めることはない。地域や保護者の皆さまからの意見を聴いて決めていく。具体的な決定時期は未定だが、開校直前にならぬよう早い段階で決めていく。 ②（ご意見としてお受けする。）
12	説明会に参加できなかった方に対し、資料や質疑回答について情報提供を願う。	説明会資料の整備計画（概要版）について、整備計画本文がHPに掲載していることを周知していく。また、説明会の質疑回答については、学校だよりで周知していく。